

株式会社 丸井グループ

2020年3月期 第3四半期決算概要

〇|〇|  
MARUI GROUP  
2020年2月6日

それでは、決算概要資料に沿って、2020年3月期 第3四半期決算概要について、  
ご説明させていただきます。

- ①EPSは、4%増の92.0円と第3四半期としては過去最高
- ② 連結営業利益は329億円（8%増）と4期連続の増益
- ③小売セグメント営業利益は8%減、  
フィンテックセグメント営業利益は16%増
- ④小売の業績を踏まえ、連結営業利益440億円（7%増）に  
通期見通しを下方修正

まず、決算ダイジェストのページをご覧ください。

今期のダイジェストは4点ございます。

1点目は、EPSですが4%増の92.0円となりました。

2点目、連結営業利益は8%増で4期連続の増益となりました。

3点目は、セグメント別営業利益ですが、  
小売が8%減、フィンテックは16%増となりました。

4点目は、通期の見通しですが、小売の業績を踏まえて、連結営業利益を7%増益の440億円に15億円下方修正させていただきます。大変申し訳ありません。

	19年3月期	20年3月期	前年比	前年差
	第3四半期	第3四半期		
EPS (円)	88.3	92.0	104	+3.7
	兆 億円	兆 億円	%	億円
グループ総取扱高	1 8,810	2 1,743	116	+2,933
売上収益	1,865	1,864	100	△1
売上総利益	1,416	1,490	105	+74
〈リカーリングレベニュー〉	〈909〉	〈984〉	〈108〉	〈+75〉
販管費	1,111	1,161	104	+50
営業利益	305	329	108	+24
(通期業績・年初計画に対する進捗率)	(74%)	(72%)		
当期利益	193	199	103	+6

それでは決算の概要を説明させていただきます。  
 決算概要資料2ページの「連結業績」の表をご覧ください。

中期計画のKPIとしておりますEPSは、4%増の92.0円となり、  
 第3四半期としては過去最高です。

グループ総取扱高は16%増の2兆1,743億円、フィンテックセグメントにおける  
 ショッピングクレジット取扱高が17%増と引き続き拡大したことが全体を牽引いたしました。

売上収益は、フィンテックセグメントが11%増、  
 小売セグメントが11%減となったことで、ほぼ前年並の1,864億円となりました。

売上総利益は、5%増の1,490億円、4期連続の増益となりました。売上総利益ベースでの  
 リカーリングレベニューは8%増の984億円となり、順調に拡大しています。  
 リカーリングレベニューが増えた要因としては、小売における定借化の拡大と  
 フィンテックにおけるリボ・分割払いや、家賃保証の拡大が挙げられます。

販管費は、小売ではコスト削減を進めましたが、  
 フィンテック拡大による変動費の増加などにより、  
 全体では4%増の1,161億円となりました。

その結果、営業利益は8%増の329億円となり、4期連続の増益となりました。  
 一方で年初の通期予想に対しての進捗率は72%と、前年を2%下回る水準となりました。

当期利益につきましては、3%増の199億円、5期連続の増益となりました。

## セグメント別利益の状況

### 営業利益

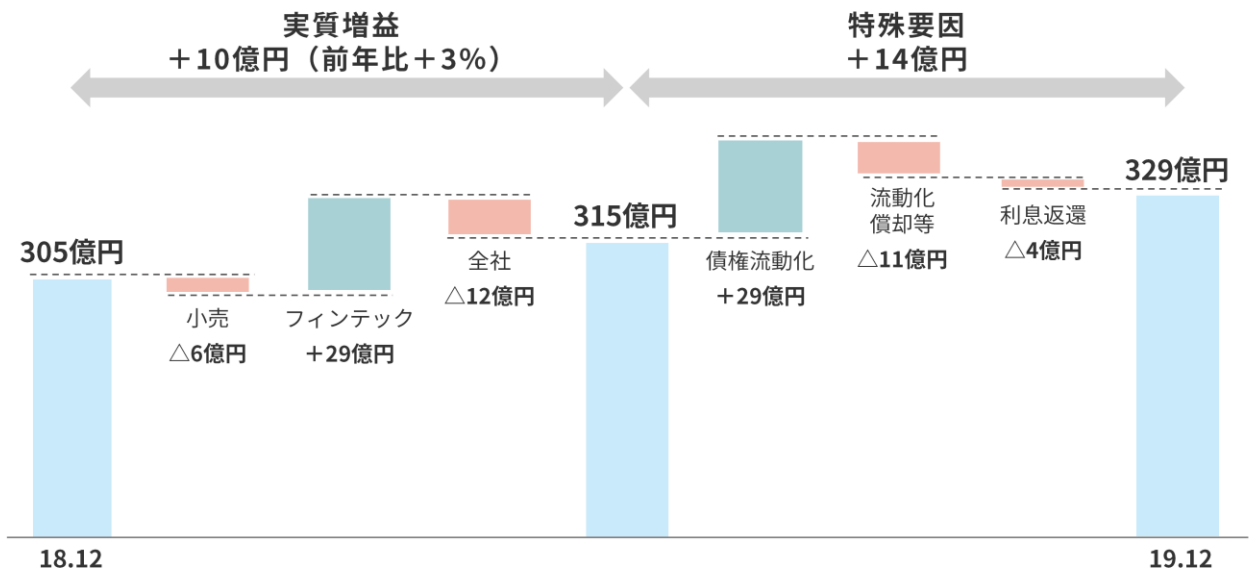
	19年3月期 第3四半期	20年3月期 第3四半期	前年比	前年差
	億円	億円	%	億円
小売	83	77	92	△6
フィンテック	261	303	116	+42
全社・消去	△39	△51	—	△12
連結	305	329	108	+24

続きまして、3ページ セグメント別利益の状況 をご覧ください。

小売セグメントの営業利益は8%減の77億円、  
フィンテックセグメントの営業利益は16%増の303億円となりました。  
営業利益の増減要因につきまして、後ほど詳しくご説明いたします。

全社消去は人材投資や新規事業開発のための研究開発費などの影響もあり、  
12億円増加しましたが、フィンテックの利益増が大きく、  
連結営業利益は8%増の329億円となりました。

# 営業利益増加の内訳



次に、4ページ 営業利益増加の内訳 についてご説明いたします。

まず、11月の決算説明会でもご説明しましたが、

第2四半期にてリボ債権の流動化を実施しました。

これに伴う譲渡益の計上が71億円と昨年に比べ29億円増加しました。

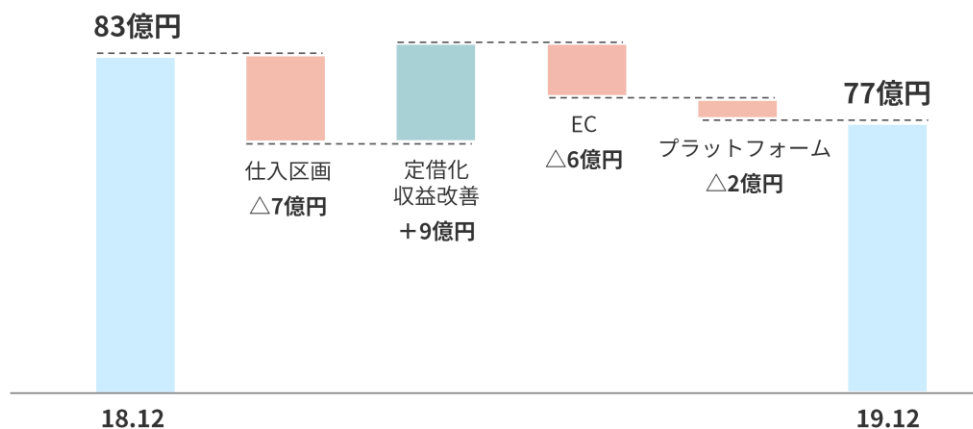
また利息返還についても、上半期に29億円の積み増しを行いました、これは昨年に比べ4億円増加となっています。

これに、これまで実施した債権流動化の償却等を考慮すると、今期の特殊要因は14億円の増益要因があったこととなります。

このため、これらの特殊要因を除いた実質的な連結営業利益は、3%増の315億円、10億円の増益となりました。

実質増減益のセグメントの内訳については、小売が6億円の減益、フィンテックが29億円の増益となりました。

## 小売の状況について



続きまして、5ページ 小売の状況 について、チャートに基づきご説明いたします。

利益の内訳ですが、増加要因としては  
SC・定借化による収益改善が着実に進んだことにより、  
9億円のプラスとなりました。

一方、10月の消費増税以降の消費の冷え込みや暖冬の影響により、  
取扱高の減少が直接利益に影響する仕入区画が7億円のマイナスとなりました。  
内訳としては消化仕入が3億円のマイナス、自主専門店が4億円のマイナスとなります。

Eコマースにつきましては、  
上半期に続きPBの不振や環境の変化などで6億円の減益となりました。  
以上の仕入およびECの部分は当初想定と大きくずれてしまい、  
業績予想の修正につながってしまいました。  
大変申し訳ありませんでした。

また、プラットフォームは店装事業の大型工事の期ずれ等により  
2億円のマイナスでした。

以上の結果、小売セグメントは第3四半期で8%減、6億円の減益となりました

## フィンテックセグメントの状況

	19年3月期 第3四半期		20年3月期 第3四半期		前年比 %	前年差 万人
	万人		万人			
新規会員数	59		60		103	+2
（丸井グループ店舗外入会）	(29)		(34)		(116)	(+5)
カード会員数	676		714		106	+38
プラチナ・ゴールド	208		240		115	+32
	兆	億円	兆	億円	%	億円
フィンテック取扱高	1	7,105	2	0,029	117	+2,924
ショッピング	1	3,909	1	6,297	117	+2,388
（外部加盟店）	(1)	3,102)	(1)	5,538)	(119)	(+2,436)
サービス		2,047		2,570	125	+522
カードキャッシング		1,080		1,098	102	+18
営業債権残高（流動化債権を含む）		6,886		7,592	110	+706
ショッピングリボ・分割払い		3,272		3,585	110	+313
カードキャッシング		1,489		1,517	102	+28
貸倒率（%）		1.33		1.36	—	+0.03

次に、6ページ「フィンテックセグメントの状況」についてです。

第3四半期の新規カード会員数は、前年に対して2万人増の60万人となりました。ネットおよびサービス分野からの入会拡大が寄与しました。

12月末のカード会員数は前年に対して38万人増の714万人となりました。うちプラチナ・ゴールド会員は15%増の240万人、総会員数における構成比は34%となり、メインカード化が着実に進んでおります。

取扱高に関しては、プラチナ・ゴールド会員取扱高が全体を牽引したほか、家賃保証ビジネスの拡大にともない、17%増の2兆29億円となり、初めて第3四半期で取扱高2兆円を突破しました。

流動化債権を含むショッピングのリボ・分割払い残高は、10%増の3,585億円となりました。

利便性の向上による分割払いのご利用拡大が、引き続き残高の増加につながっております。

また、流動化債権を含むキャッシングの残高はカード会員の増加にともない、2%増の1,517億円となりました。

## バランスシートの状況

	19年3月末	19年12月末	増減
	億円	億円	億円
営業債権	5,657	5,909	+252
（債権流動化額：外書）	(1,193)	(1,684)	(+491)
〔流動化比率（%）※1〕	〔17.4〕	〔22.2〕	〔+4.8〕
割賦売掛金	4,282	4,526	+244
営業貸付金	1,375	1,383	+8
固定資産	2,498	2,556	+57
有利子負債	4,866	5,003	+137
〔営業債権比（%）※2〕	〔86.0〕	〔84.7〕	〔△1.3〕
自己資本	2,848	2,898	+50
〔自己資本比率（%）〕	〔32.0〕	〔31.3〕	〔△0.7〕
総資産	8,902	9,249	+347

※1 流動化比率 = 債権流動化額 / (営業債権+債権流動化額)

※2 営業債権比 = 有利子負債 / 営業債権

次に、7ページ バランスシートの状況 についてご説明いたします。

流動化比率は、2021年3月期の目安25%に対して、12月末は22%となりました。

有利子負債は、増加した営業債権への対応により前期末に対して137億円増加いたしました。

営業債権に対する有利子負債の比率は、84.7%、自己資本比率は、31.3%となっております。



## キャッシュ・フローの状況

	19年3月期 第3四半期	20年3月期 第3四半期	前年差
	億円	億円	
営業キャッシュ・フロー	△141	114	+255
営業債権等の増加 (△)	△392	△137	+254
<b>基礎営業キャッシュ・フロー ※3</b>	<b>250</b>	<b>251</b>	<b>+1</b>
投資キャッシュ・フロー	△74	△151	△77
固定資産の取得	△61	△90	△30
投資有価証券の取得	△48	△63	△15
固定資産の売却他	34	2	△32
財務キャッシュ・フロー	180	△49	△229
有利子負債の増加	346	136	△210
配当金の支払い	△95	△117	△23
自己株式の取得他	△72	△68	+4
現金及び現金同等物の増減	△36	△86	△50
現金及び現金同等物の期末残高	418	381	△37

※3 基礎営業キャッシュ・フロー = 営業キャッシュ・フロー - 営業債権等の増減

次に、8ページ「キャッシュ・フローの状況」をご覧ください。

営業キャッシュ・フローから営業債権等の増加を除いた、基礎営業キャッシュ・フローは、251億円で前年に対して微増となりました。

また、改装投資の増加や、スタートアップ企業10社への投資などで、投資キャッシュ・フローは151億円のキャッシュアウトとなりました。

## ESGの状況について

- 2020年1月CDPより最高評価の『気候変動Aリスト』企業に2年連続で認定
- IRDAY、有価証券報告書に続き、決算短信にもTCFDについて言及



CLIMATE



### ■2020年3月期のおもな外部評価

- D J S I World Index  
2年連続で選定
- ロベコサム「ブロンズクラス」  
「インダストリームーバー」初認定



- G P I Fが選ぶ4つのESG指標に選定



FTSE Blossom  
Japan

3年連続



2019 Constituent  
MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)



2019 Constituent  
MSCI ジャパンESG  
セレクト・リーダーズ指数

3年連続



初選定

次に、9ページ ESGの状況 についてご説明いたします。

1月には、環境問題における国際的な評価機関であるCDPより、2年連続で、最高評価の気候変動Aリスト企業として認定されました。

また、IRDAY、有価証券報告書に続いて、今回の決算短信にもTCFDについて記載をしておりますので、ご確認いただければと思います。

今後も、ESG経営のフロントランナーになるべく、すべての人が取り残されることなく「しあわせ」を感じられる、インクルーシブで豊かな社会をめざし、ステークホルダーの皆さまと共創サステナビリティ経営に、積極的に取り組んでまいります。

## 2020年3月期 通期見通し

	19年3月期	前回修正計画 20年3月期	今回修正計画 20年3月期	前回修正 計画差	前年比
EPS (円)	116.0	127.3	122.7	△4.6	106
ROE (%)	9.1	9.5	9.2	△0.3	—
ROIC (%)	3.7	3.9	3.8	△0.1	—
一株当たり配当金 (円)	49.0	57.0	57.0	—	116
配当性向 (%)	42.2	44.8	46.5	+1.7	—
総還元性向 (%)	69.9	70.2	72.8	+2.6	—
<b>〈参考〉</b>					
	兆 億円	兆 億円	兆 億円	億円	%
グループ総取扱高	2 5,396	2 9,900	2 9,800	△100	117
売上収益	2,514	2,620	2,560	△60	102
売上総利益	1,905	2,040	2,015	△25	106
販管費	1,493	1,585	1,575	△10	105
営業利益	412	455	440	△15	107
当期利益	253	275	265	△10	105

最後に、10ページ 2020年3月期通期見通し、および  
11ページ <参考>セグメント別利益予想をご覧ください。

通期の業績予想につきましては、第3四半期までの結果および最近の動向を踏まえ、第2四半期決算発表時の計画から修正をしています。


具体的には小売セグメントで消費増税後の消費の冷え込みや、暖冬の影響などにより、売上収益で60億円、営業利益で15億円、当期利益は10億円の下方修正を行いました。

その結果、EPSは、前年比6%増の122.7円、  
ROEは、前年差プラス0.1ポイントの9.2%、  
ROICは、前年差プラス0.1ポイントの3.8%を計画しています。

## <参考>セグメント別利益予想

### 営業利益

	19年3月期	前回修正計画 20年3月期	今回修正計画 20年3月期	前回修正 計画差	前年比
	億円	億円	億円	億円	%
小売	114	130	115	△15	101
フィンテック	350	390	390	—	111
全社・消去	△53	△65	△65	—	—
連結	412	455	440	△15	107



本資料に掲載しております将来の予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。お問い合わせは、I R部 03-5343-0075にご連絡ください。

OIOI  
MARUI GROUP